

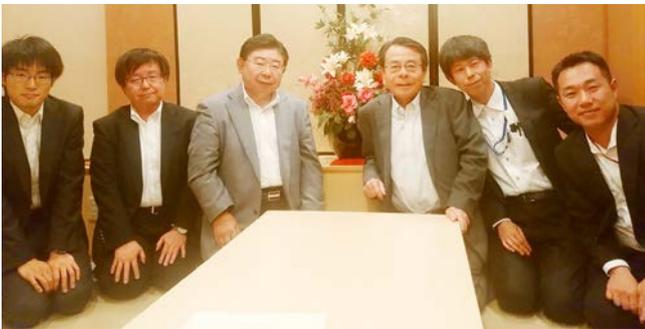
[5] 支部だより

北海道支部

(H19, H21) 大塚 健太

北海道支部では、今年度の会合を6月16日(金)に札幌市内で開催致しました。

参加者は、評議員を務めて頂いている臼井幸彦氏 (43, 45, H13), 北海道支部長を務めて頂いている川合紀章氏 (54, 56) をはじめ、石川達也氏 (62, H1), 本田肇氏 (H8, H10), 酒井聡佑氏 (H28) そして大塚 (H19, H21) の6名でした。参加人数こそ例年に比べ控えめでしたが、諸先輩方のバラエティに富んだ近況報告により、話題は尽きること無く楽しい時間を過ごすことができました。



最近の話題ですが、過ごしやすい北海道の夏の印象が変わりつつあることを実感しています。昨年は8月下旬に観測史上初の3台風の上陸などにより、全道的な大雨による甚大な被害が発生しました。特に十勝地域・オホーツク地域など道東の畑作地帯での被害が大きく、40,000ha近くの農地が被災し、馬鈴薯、タマネギなどの農作物の被害額は263億円にも及びました。これにより農作物価格の上昇や、カルビー・湖池屋のポテトチップスの一部製品の生産中止・休止など、全国的な影響が生じたところです。一方で今年は7月上～中旬にかけて12日連続で真夏日を記録し、エアコンや扇風機が品薄状態となっています。

20世紀末から21世紀末にかけて北海道の年平均気温が3℃程度上昇し、大雨や短時間強雨の頻度が増加するという予測もなされております。今後、気候変動の影響予測と、そのリスクの発信・共有が一層重要になってこようかと存じます。

支部を代表し、北海道のPRも1つ。会合当日が「北海道神宮例祭(札幌まつり)」の最終日に重なったことから、会合でも話題になりましたが、道都・札幌市は京都に負けず集客力のあるイベントを開催しております。夏は大通公園をはじめ市内各地でビアガーデン、秋は北海道の味覚を漏れなく堪能できる「さっぽろオータムフェスト」そして真冬の「さっぽろ雪まつり」は世界的に有名です。さらに文化・芸術の町でもあり、「YOSAKOIソーラン祭り」、「SAPPORO CITY JAZZ」、「PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)」、「札幌国際芸術祭」と様々なジャンルのイベ

ントが目白押しです。

多すぎてここでは紹介しきれませんが、地域の特産品を前面に出した魅力的なイベントが道内各地で開催されておりますので、ぜひ興味を持って頂ければ幸いです。

東北支部

(H5) 和田 宙司

最近は何のせいか、読書の対象が時代小説や歴史小説に変化してきました。最初に読んだのは定番の「竜馬がゆく(司馬遼太郎)」。先進的なアイデアと軽いフットワークで激動の幕末時代を駆け抜ける竜馬がとても魅力的です。次に読んだのは「新平家物語(吉川英治)」。平家の繁栄、源氏の台頭、そして義経の死。非常に長い小説でしたが、時代に生きた武士達の思いが伝わってきます。ちなみに青森県津軽半島には三厩という地名があり、義経が岩の洞窟にいた3頭の馬に乗って北海道へ渡ったと言われています。昨年、九州旅行に行く機会があり、長崎県で竜馬が設立した貿易結社「亀山社中」跡を、山口県で壇ノ浦古戦場跡を見ました。歴史を知ることで、旅の面白さが増えますね。今年、会津若松市では「戊辰150周年」として、仙台市では「伊達政宗公生誕450年」として、会津藩、仙台藩の歴史、文化、誇りを再認識するさまざまなイベントが行われます。是非、戦国時代や幕末の歴史小説をお読みの上お越しく下さい。

さて、本題の東北支部の活動状況ですが、1月23日に新年会を開催し、和気あいあいと飲み会しました。京土会東北支部はこれからも、気軽に参加できるフレンドリーな活動を続けて行きたいと思います。今回、新年会に参加頂いた方は以下のとおりです。

遠藤さん(49, 52), 佐分さん(56, 58), 山本さん(56, 58), 武政さん(57, 59), 奥村さん(59, 61), 渡邊さん(60, 62), 上坂さん(60, 62), 久田さん(H2), 河井さん(H3, H5), 田中さん(H3, H5), 古寄さん(H5, H7), 和田さん(H5), 中西さん(H5, H7), 伊藤さん(H7, H9), 嶋村さん(H8, H10), 長田さん(H9, H11), 田村さん(H14, H17), 中西さん(H19, H21), 峠さん(H22, H24)



新年会写真 (H29.1.23)

東京支部

(49) 福本勝司

ご紹介いただきました東京支部の代表幹事をいたしております。昭和49年卒業の福本でございます。本日は大石支部長の代理としまして、支部からのご挨拶をさせていただきます。大石支部長は6月9日に開催されました土木学会総会において第105代会長に選出されましたので、会長職多忙の折から今回の京土会総会は欠席になりました。新会長挨拶の中で3つの特別タスクフォース、「安寧の公共懇談会」、「レジリアンスの確保に関する技術検討委員会」、「国土とインフラの維持管理・更新」を打ち立てられ、忙しく活動を始められました。京土会からの久しぶりの土木学会会長です。これからのご活躍を期待いたしますと共に東京支部上げてご支援いたしたいと思っております。



京土会前会長の細田尚教授にはこの一年間、京土会の活動の発展にご尽力いただきまして有難うございました。これからの一年間は天津宏康教授のもと、本部、支部が一体となって益々京土会が発展していきますように、よろしく願いたします。

東京周辺は築地の移転問題が連日マスコミを賑わせています。皆様におかれましてはすでにお聞き及びのことも多いと存じますが、それ以外にもインフラ整備が活発に行われておりますので、この一年間の出来事につきまして簡単に触れさせていただきたいと思えます。

オリンピックの東京開催に合わせて、国立競技場の建て替えが始まりました。昨年12月11日に起工式が行われ、地盤改良と土留壁の施工が行われております。また現在、首都圏では大型のトンネル工事が目白押しです。直径16mを越える外環道のシールドマシンが2月19日に発進しております。3月27日には横浜環状北西線のシールドマシンが発進し、2020年の東京オリンピックまでの開通を目指しております。圏央道の南端になる横浜環状南線、横浜湘南道路の工事も進められています。

リニア新幹線の工事が首都圏でも始まりました。品川駅、北品川の非常口および変電所工事では連続地中壁の施工が始まっております。引き続き東京都内のシールド工事が発

注されると考えられております。

首都高速道路の大規模更新の最初の工事である高速道路1号線の工事は2015年8月5日に工費約798億円、工期約10年で契約されましたが、最初の上り線の迂回路の建設が進み、工事は順調に進められております。

東京周辺では道路の開通が相次いでありました。3月18日に横浜環状北線が開通し新横浜付近から湾岸線へのアクセスが向上しました。開通当初から一日16,000台の車が利用しております。今後、横浜環状北西線が開通しますと、東名高速から湾岸部へのアクセスが劇的に改善されると思われれます。また、遡りますが、2月26日に圏央道の境古河IC～つくば中央ICの間が開通し、千葉県の東関東自動車道から東名までが繋がりました。圏央道の約90%が繋がったこととなります。

平成29年5月26日に国土交通省から「首都圏白書」が発刊されましたが、それによりますと平成19年に開通した、圏央道の中央道から関越道の間沿線4市町村（羽村市、日高市、日の出町、入間市）では製造品出荷額の伸びが平成21年から5年間で埼玉県と東京都の全体平均の1.4倍になったそうです。都心経路を回避することにより、茨城県五霞町から静岡・神奈川への物流配送時間が1時間短縮され、配送コストが1割削減されました。このように圏央道のストック効果は顕著であり、今後、首都圏3環状が整備されました暁には首都圏の成長発展・国際競争力の強化が期待されております。

環状道路網の完成により、利便性の向上が少しずつマスコミにも取り上げられるようになり、土木の重要性が再認識されるようになっております。我々もこの機会を捉えて、先ほどの澤田副社長のお話にもありましたように、生産性向上策への取り組みと生産性向上のための投資、また、建設産業に従事する人の処遇向上、職場環境の整備を行うことによる担い手確保、に取り組んでいかなければならないと思えます。産官学が一体となって取り組まなければならない問題であり、産業界で発生している、あるいは発生が予見される問題を大学と共有し、官の制度の中に取り入れていくことが重要だと考えます。京都大学で同時期を過ごし共通の経験を持っていることは、スムーズなコミュニケーションを進めていく上で重要なことと思えます。群れることなく、ユニークな発想と行動力がある京土会の繋がりの中で世間に対して新しい提案が次々となされることを期待しております。そのなかでも、とくに大学からの情報発信は世間に対する影響力が大きく、土木に対する世間の認識を高めるために、今後とも京都大学からの情報発信をよろしく願いたします。

次に京土会東京支部の活動ですが、東京支部は会員数約3,500名という大所帯でございます。毎年6月に総会を開催いたしておりますが、今年も6月5日に学士会館で支部総会を開催し162名の参加がありました。総会では今年度は岸田潔教授、八木知己教授をお招きして大学の近況についてご紹介いただきました。総会後の懇親会では各界でご活躍

されている京土会の卒業生からご挨拶を頂きました。政界から衆議院議員の井林辰憲先生、また、公務ご多忙の折から出席ができませんでした参議院議員の足立敏之先生に代わり後援会の木下賢司様から近況のご紹介を頂きました。官界から環境省の縄田正技術統括官、国土交通省の大西亘関東地方整備局長、五道技術審議官、民間から次期社長に就任予定の乗京正弘飛鳥建設代表取締役副社長からご挨拶を頂きました。総会でご挨拶いただいた皆様以外にも、政界では衆議院に太田昭宏先生、足立康史先生、参議院に佐藤信秋先生、内閣府では尾澤卓思大臣官房審議官、国土交通省では七條牧生総合政策局官房技術参事官、泊宏水管理・国土保全局治水課長、神田昌幸東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会施設・整備調整局長の皆様が活躍しておられます。

最後になりましたが、京土会事務局の皆様にご挨拶申し上げます。京土会会員の皆様のご活躍、ご発展を祈念いたしましてご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

千葉支部

幹事 (H4, H6) 辰 見 タ ー

千葉支部では、3月9日に第27回目の懇親会を例年通り千葉駅傍の京葉銀行文化プラザにて開催、今年は22名の卒業生が集まりました。参加頂いた方は、昭和40年卒の前川行正氏から平成24年卒の高田雄大氏までと、今年も幅広い年齢層を交えての懇親会を開催することが出来ました。

懇親会は、恒例行事として参加者全員がショートスピーチで最近の近況や思いなどを自由に報告し合い、最後に皆で円陣を組んで琵琶湖周航の歌を歌って会を締めるというスタイルを続けておりますが、堅苦しさは一切なく同窓の諸先輩・後輩と気兼ねなく語れる居心地の良い場となっております。私自身、大学を卒業以来千葉支部の活動に携わっておりますが、年を重ねる毎に京土会のメンバーが千葉で集まる場があるということにありがたみを感じるとともに、支部の発展に引き続き貢献出来ればと考える次第です。

さて、本年の支部報は、千葉県のOBで毎年欠かさず懇親



会にお越し頂き、会を盛り上げて頂いております昭和45年卒の弘山知直氏に執筆をお願い致しましたのでここにご紹介させていただきます。

(45) 弘 山 知 直

私が千葉県庁に奉職したのは、大阪万博が開催された1970年です。当時は、経済成長真っ盛りで、多くの技術者が全国から東京湾岸に流入している時期でした。

県庁職員になるので、てっきり千葉市にある県庁舎に勤めると思っていたところ、配属されたのは市川市にあるエアコンもない建設事務所でした。基盤整備の公共事業が突貫工事で行われていた時期でもあり、着任早々研修を受けることもなく、1年後には竣工が決まっている工事の、設計、現場管理、宿直に住民説明まで任せられて、当然のことながら失敗の連続の上、事故で顔に大やけどを負ったりしたことも重なって、ほとんどノイローゼ状態でした。

そんな時の大きな救いが「音楽」でした。その年の9月、イタリア歌劇団の来日公演、プッチーニの「トゥーランドット」を見に行きました。孤独と放浪の日々を送っていた王子カラフが、紫禁城の城門で、自らの運命を切り開くため、命を懸けて3つの銅鑼を打ち鳴らす第1幕の幕切れの場面には鳥肌が立ちました。以来辛いことがあるたびに、私の耳元では3つの銅鑼が鳴り響くようになりました。今でも、「トゥーランドット」は、ヴェルディの「マクベス」、R・シュトラウスの「カプリッチョ」と並んで私にとって「三大オペラ」です。

もうひとつの救いは、当時県庁内で活発に行われていた「京土会」です。1960年代の後半から、千葉県庁には毎年複数の京大土木系の卒業生が入庁していましたから、すでに相当数の京土会会員が県庁にいました。それと、千葉県の土木部長は、当時建設省から派遣された官僚のポジションになっていて、たまたま京大卒の部長が続いていたこともあって、かなりの頻度で開催されていました。そこでの諸先輩からの励ましやお叱りは、私にとっては何よりの「生きる糧」で、まさに砂漠のオアシスでした。

いくつもの夢が破れ、4年後には私も本庁勤務に異動があり、結婚もしたのですっかり落ち着いた「役人」になっていました。新婚旅行の帰路、ロスアンゼルスからの機内で、恩師岩井重久先生と偶然乗り合わせ、いろいろとお話したのも良い思い出です。

千葉の京土会に大きな転機があったのは1986年です。長尾義三先生が習志野市の日本大学理工学部教授として着任されたため、京土会として歓迎会を開催しようということになり、当時活発に会合を開いていた県庁と川崎製鉄(株)千葉製鉄所の会員が中心になって、千葉県内在住、在勤の会員に声をかけ、ここに名実ともに京土会千葉支部が発足しました。これにより、幅広い分野の方々との楽しい交流ができるようになりました。

私は、1990年に始まった京大と米国ハーバード大の両大グリークラブのOB同志の交歓コンサートの指揮者になった

ため、その練習のため頻繁に京都まで往復することになり、最近の京大の様子を報告する役割を担いました。

この交歓コンサートは、両国のトップビジネスマン同志の文化交流という側面もあり、1992年にはボストンでも開催され、日米のマスコミで大きな話題になりました。このイベントは今でも後輩たちに受け継がれ、続いています。

2004年3月、定年を1年後に控えた定期健診で胃がんが見つかり、初期がんだったのですが、場所が悪く全摘手術を受けました。ほぼ1か月で職場復帰したのですが、体調がずっと思わしくなく、精密検査したところ今度は直腸にがんが見つかりました。ステージ4の浸潤がんということで、13時間に及ぶ難手術で、何とか手術は成功しましたが、入院が4か月に及び、3月末の退職日には病室に花束が届けられました。5月の退院後もなかなか体調は回復せず、8月に再手術になり、内定していた再就職の話もご破算になりました。

以来、毎年のように大腸がんの再発・手術を繰り返し、2016年の十二指腸がんの手術で通算10回開腹手術したことになります。

現在私の体の消化器系の臓器は、胃、十二指腸、膀胱、直腸、肛門、前立腺がすでに無く、小腸の3分の2と大腸の4分の1が残っているだけです。にもかかわらず、今は普通に食事でもできますし、海外旅行にも何度も行きました。

医師は「医学の常識外」、看護師は「音楽の神様がっている」、友人たちは「不死身」と言います。自分でも、人間の体とは大したものだと思いますが、それにはもう一つ理由があるように思います。

現在私は、「がんピアサポーター」と「障害者相談員」を中心に知事から委嘱を受けてボランティアをしています。ここでの活動が、何より私自身の活力の源になっていると思います。人の役に立っているかどうかは別にして、ここにはサラリーマン時代のようなストレスが全くありません。

さらにもう一つの命の源は、毎年続いている京土会千葉支部の懇親会です。この会はその時間のほとんどを参加者のショートスピーチで費やすのですが、その内容が自慢話や営業話とはかけ離れた、たわいのない世話物狂言に終始するので、何とも楽しいのです。そして最後に全員で肩を組んで「琵琶湖周航の歌」を大声で絶唱する。これがある限り私は大丈夫です。



新潟支部

(H9, H11) 大江 真 弘

平成28年度より新潟支部の一員となりました。国土交通省新潟国道事務所長の大江真弘 (H9, H11) です。支部幹事のニイガタステーションホテル社長 曾根隆夫様のご指名により、今回の支部報告を担当させていただきます。

平成28年度の新潟支部総会は、平成29年3月7日(火)、新潟市内の会場にて前新潟市長の長谷川義明様をはじめ出席者10名により開催されました。私は今回の出席者の中で最年少でした。諸先輩に話を伺うと、新潟支部の会員は少なく、活動は年1回の総会の開催にとどまっているものの、総会の際にはお互いの近況報告や、昨今の土木分野を取り巻く環境の変化、新潟県や新潟市における社会資本整備や防災に対する意見交換など、熱心に活動を行っておられる様子がわかりました。今後とも、少人数ではありますがネットワークを活かした情報交換を行えば幸いです。



さて、少々紙幅をいただきまして、昨今の新潟の土木情勢について、自分の仕事内容も踏まえて紹介したいと思います。

平成28年度は、新潟市中心部の信濃川に架かる「萬代橋」の初代木橋建設130周年という記念すべき年で、様々なイベントが行われました。(ちなみに、重要文化財である現在の「萬代橋」は3代目で、建設88年目です。) 市民アンケートで「新潟といえば」という質問に最も多い回答が「萬代橋」であるとも聞きます。こうした回答に土木構造物の名前が挙がることは珍しいことと思いますが、土木技術者として誇らしいことです。今後、ストックメンテナンスの時代を迎え、萬代橋のように、市民の共感を得ながら、社会資本の整備・維持管理を進めていくような機運の熟成が重要だと感じております。

また12月には、県西部の糸魚川市において大火の災害が発生しました。現在は、復興まちづくりについて官民あげた議論が行われているようであり、土木技術者としてはこれらの動向にも注目しております。

今後は、大河津分水改築や日沿道整備の本格化、新潟駅

高架化・新在ホーム乗換実施、開港150周年記念事業などが控え、また、持続可能な市民の足の確保を目指す新潟市内の公共交通再編も、様々な難題もあるようですが進められています。長らく議論中の新潟空港アクセス問題も含め、新潟の将来を形づくる動きが様々ある時期を迎えており、しっかりと見守って行きたいと思えます。

東海支部

支部長 (38) 三木 常 義

東海支部は、愛知、岐阜、三重、静岡の4県に住所・勤務地がある会員を対象とし、毎年度総会を開催しております。今年度も、名古屋市中区のアイリス愛知で6月14日に開催しました。本学からは工学研究科社会基盤工学専攻の高橋良和教授と西藤潤准教授にお越しいただきました。

東海支部では、総会の懇親会の前に講演会を開催しています。今年度は、高橋教授に、「京大土木耐震研究・教育体制と2016年熊本地震被害から学ぶ教訓」という演題でご講演いただきました。京大における土木系耐震の研究体制のご紹介の後、2016年4月に発生した熊本地震における橋梁構造物の被害についてご報告いただきました。この地震は、4月14日、最初の震度7が観測され、被害調査が本格化する前の16日に本震ともされる震度7が観測されたことから、被害の仕組みの解明が容易ではないという指摘がありますが、本震前の15日に行った現地調査時の被害と本震後の被害の比較など興味深い内容をご報告いただきました。地震後速やかに機能を回復できなかった橋梁が10数橋あり緊急輸送に支障を来したこと、ゴム支承の破断や制震ダンパー取付部の破壊など設計・補強の意図と異なる破壊が発生したことなどを示され、耐震補強の速やかな実施や設計の見直しが課題となっていることをお話いただきました。大規模自然災害等に備えた強靱な国づくりをしていくため、本学を始めとした取組みに期待したいと思えます。

懇親会は50名余のご参加をいただき、会員相互の交流を深めることができました。総会参加者はここ数年微増の傾向にあります。来年度の総会も楽しみにしたいと思います。

ここで、東海4県のインフラ整備の状況等についてご紹介いたします。

リニア中央新幹線については、2027年の品川・名古屋間の開業に向け、各地の工事が進捗しています。中央新幹線の駅が設置される名古屋駅及びその周辺では、2016年3月に大名古屋ビルディング（約175m）が開業した後も、2017年4月にJPタワー名古屋（約196m）とJRゲートタワー（約220m）が、10月にはグローバルゲート（約170m）がそれぞれ全面開業するなど、高層ビルの開業が続いています。JR名古屋駅に直結する位置にあるJRゲートタワーは、地下階が中央新幹線の名古屋駅として使用される予定となっています。こうした状況を反映し、名古屋駅東側の地価は対

前年変動率が29.0%と、商業地における全国7位の上昇率を示しています。名古屋駅の工事は今後本格化する予定であり、現在は関係者の調整などが進められている状況です。

道路ネットワークについては、名古屋第二環状自動車道の西南部約12kmについて2020年度の開通に向け工事が進められています。この開通により、2013年に全線開通した都市高速道路と合わせたマルサ計画（注：道路網の形状がⓈに見えることに由来する通称）が完結します。

東海環状自動車道は、岐阜・三重において工事が進められており、2016年8月には東員IC～新四日市JCTが開通し、2017年10月には養老の滝がある養老町の区間が開通しました。新名神高速道路は、2016年8月に四日市JCT～新四日市JCTが開通し、伊勢湾岸自動車道・東海環状自動車道と接続しました。現在は2018年度に三重県区間の開通、2023年度に全線開通の予定で工事が進んでいます。新東名高速道路は、2016年2月までに御殿場JCT～豊田JCTの約200kmで東名高速道路とのダブルネット化が完成しており、現在は2020年全線開通の予定で神奈川県を中心とする区間の工事が進んでいます。2008年に全線が開通した東海北陸自動車道は、4車線化事業が2018年度の供用に向け進められています。

2017年に開港110周年を迎える名古屋港は、2016年時点で総取扱貨物量が15年連続、貿易黒字額が19年連続それぞれ日本一を記録し、日本経済をけん引する国際総合港湾に成長しています。名古屋港の金城ふ頭においては、2017年4月にレゴランド・ジャパンが開業しており、今後の更なる活性化が期待されています。

中部国際空港（セントレア）は、東アジア等からの訪日需要に対して地域一体で取り組みを進めている「昇龍道プロジェクト」の効果もあり、2016年度は国際線のインバウンドが過去最高を記録するなど好調に推移しています。中部国際空港については、二本目滑走路を始めとする機能強化（完全24時間化）が課題となっており、早期実現に向け機運の高まりが期待されています。

東海地域は、今後10年の間に、道路ネットワーク整備の大幅な進捗、そしてリニア中央新幹線品川・名古屋間の開業が予定されています。今後10年間は、東海地域、そして国全体の発展にとって大切な期間となります。今後も意欲的に取り組んでいきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

長野支部

幹事 (61) 青木 謙 通

長野支部は、昨年度、平成28年度の京土会総会で承認され、本年発足2年目を迎えました。周囲を東京、新潟、東海、北陸の4つの支部に囲まれ、長野県に在住、在勤する会員7名の小規模な支部です。

さて、長野県は海に接していない内陸県であるとともに、

ご存知のとおり、約20年前の1998年（平成10年）に開催された冬季長野オリンピックを契機に、北陸新幹線や上信越道・長野道などの高速交通網が暫定的に整備をされました。一昨年、平成27年3月には北陸新幹線が長野から金沢まで延伸され、延伸区間内で県内唯一である飯山駅が開業しました。また、リニア中央新幹線の品川・名古屋間の工事実施計画が国土交通大臣に認可され、10年後の平成39年に工事を完了すべく、トンネル工事などに着手をしたところでもあります。県南部の飯田市には、新幹線駅が設置される予定で、開業後を見据えたまちづくりの取り組みが活発となり、今後の発展に期待を集めています。

今後の支部活動については、年1回の総会を開催するとともに、会員の要望に基づいた活動を展開する予定であります。長野県に在勤、在住する京土会員で支部活動のご案内をお届けできていない方は、お手数ですが下記担当者までご一報をお願いいたします。

結びに、京土会会員の皆様方のご活躍とご発展を祈念し、近況報告といたします。

連絡先（勤務先）

〒380-0836 長野市南長野南県町686-1
 長野県 長野建設事務所 整備課 青木 謙通
 電話 026 - 234 - 9543
 Mail: aoki-kanemichi@pref.nagano.lg.jp

北 陸 支 部

(H4) 市 森 友 明

北陸支部は、富山県、石川県、福井県の3県にまたがる地域であり、平成29年7月現在で93名の会員を有しています。

1. 北陸支部第31回支部総会

北陸支部第31回支部総会は、平成29年7月8日(土)、金沢市の金沢茶屋で開催されました。各県担当幹事の皆様のご協力もあり、3県から22名の会員にご参加いただきました。

はじめに金沢大学名誉教授 北浦勝支部長（42, 44, 47）のご挨拶をいただき、その後、開催県である金沢大学名誉教授/北陸電力株式会社 技術顧問の石田啓様（47, 50）から開会のご挨拶をいただきました。総会では、役員改選議案を始め、各議案が順調に審議・承認され、北浦勝支部長が再任されました。

2. 講演会、懇親会

総会に引き続き講演会が行われ、「北陸新幹線金沢開業の光と影～来し方 行く末」と題して金沢学院大学経営情報学部教授 竹村裕樹様にご講演いただきました。



平成29年7月8日
 ご講演される金沢学院大学経営情報学部教授 竹村裕樹様



平成29年7月8日 講演会の様子

竹村様は、東京大学ご卒業後、石川県庁に入庁され、香林坊再開発、県庁周辺副都心区画整理、金沢外環状道路など石川県内のまちづくりに長年携われ、平成27年より現職に就かれ都市計画や観光・経済等を教えておられます。今回のご講演では、一昨年に北陸新幹線金沢が開業し、新幹線開業の効果と課題について、これまでの金沢の都市づくりの歴史や今後の都市づくりのポイントなどについてお話いただきました。

はじめに、都市を取り巻く潮流の変化として、人口減少・少子高齢化やIT化、国際化などの現状についてご紹介され、金沢の都市づくりの基盤となる寺内町から城下町へ近代、現代の都市づくりの歴史をご紹介されました。北陸新幹線開業への取組事例としてPRイベントやご当地キャラクター、アンテナショップなどをご紹介され、開業前後の変化では主要交通、来訪者、インバウンド、企業、二次交通の各項目において開業後1年目は急増、2年目は微減するも新幹線効果はおおむね継続していることをご紹介され、開業の光としては観光業の経済効果が大きいこと、利用者のライフスタイルの質が向上したこと、広域観光ルートの展開が図られたことをご説明され、逆に影としては観光客のマナー問題、地元客・地元店への支障、観光客向けの流行は本来の文化であることをご説明されました。今後の課題として、新たな観光の展開、来訪者との共存共栄、移住・定住の促進、市民の生活・文化の質的向上とまち磨きの不断の努力が必要であることをお話いただきました。最後に、金沢は歴史の厚みと奥行きが深さが魅力であり市民が我が

まちに誇りと愛着を持ち、幸せを実感できるようにするための金沢の都市づくりのポイント5箇条をご紹介いただきました。竹村様、ありがとうございます。

総会終了後、懇親会では、北浦勝支部長に開会のご挨拶をいただき、石川県を代表して株式会社地域みらい代表取締役 北原良彦様 (55, 57) にご挨拶をいただき、福井県土木部長 辻義則様 (55, 57) の乾杯で開宴となりました。宴会中は年に一度の顔合わせということで、恒例の各自の近況報告もあり、様々な話題で大いに盛り上がりました。

最後に次回開催県を代表し、富山大学副学長/京都大学名誉教授中川大様 (54, 56) のご発声で中締めとなりました。

3. おわりに

平成27年3月に北陸新幹線が開業し2年が経過しました。今回は、新幹線開業の光と影と題しご講演いただき、新幹線開業による効果だけでなく課題についてもお話いただき、平成34年度敦賀延伸に向けて、金沢・富山それぞれの更なる都市づくりへの取組みが必要あることが確認される内容でありました。富山駅は現在でも工事が継続されており、数年後に在来線の高架化や路面電車の南北開通が完成する見込みです。北陸新幹線は北陸地方のみならず、災害時の太平洋側交通のバイパス機能としての効果が期待されており、日本海国土軸の形成とも相まって、関西までの開通が待ち遠しいかぎりです。関西まで延びれば、小浜-京都は19分、福井-大阪は55分で結ばれ、福井は完全に関西圏の通勤・通学範囲に入ります。観光客やU, J, Iターンも増えるでしょう。北陸地方を含む日本海沿岸地域のさらなる発展のため、まちの格を上げるため、我々北陸支部会員はそれぞれの立場で切磋琢磨していきたいと考えております。



平成29年7月8日 支部総会出席者の皆様

京 滋 支 部

支部長 (55) 建 山 和 由

本年度支部長をおおせつかりました立命館大学理工学部環境システム工学科の建山です。

京滋支部の支部長・事務局は、京都大学、京都市、京都府、立命館大学(滋賀県)の輪番で担当することが慣例となっており、今年度は、昨年度の京都府から私どもが引き

継いでおります。現在京滋支部は、京都府・滋賀県に在住・勤務されている卒業生の方々を中心に、約1,100名を抱える大組織となっています。

支部の行事につきまして、昨年度は、平成28年11月10日(木)、田辺カントリー倶楽部において、第37回石原杯争奪ゴルフ大会を不老会コンペに合流する形で実施いたしました。また同月18日(金)には京都ガーデンパレスにおいて、45名の会員の皆様にご出席いただき支部総会・懇親会を開催いたしました。総会では冒頭、平成28年度支部長である京都府中丹広域振興局長の中村敬二様から開会の御挨拶をいただき、大学からの来賓としてお越しいただいた都市社会工学専攻の三村衛教授及び都市環境工学専攻の倉田学児教授の両先生から、それぞれ大学の近況報告や話題提供などをいただきました。続いて、石原杯ゴルフ大会の結果が幹事の公成建設(株)の絹川定様より紹介され、久米生泰様 (S60) に優勝カップが授与されました。この後は事務局報告を経て懇親会となり、富田實様 (S28) に乾杯のご発声をいただき、終始和やかな雰囲気の中で一同歓談することができました。なお、倉田教授におかれましては、病氣療養中のところ、平成29年6月12日にご逝去されました。ご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申しあげますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

さて、京都・滋賀地域における建設業の情勢について報告します。昨年4月に国土交通省がi-Constructionをスタートさせました。今後、生産年齢人口が毎年1%ずつ減少していく状況の中で、建設業では担い手確保が益々困難になるという見通しから、建設分野における生産性を画期的に改善させ、「きつい」、「汚い」、「危険」で象徴される3Kの産業を「給料」、「休日」、「希望」面で明るい展望を持つことのできる新3Kの産業に体質を変えていこうという施策です。その主要な方策の一つがICTを活用したインフラ整備の合理化と効率化です。すでに国関係の大きな工事では、様々な取り組みが始まっていますが、地方自治体レベルの工事とローカルの企業に関しては、これからという状況です。このような状況の中でも京都と滋賀ではその取り組みが始まっています。滋賀県では、県内の自治体職員を対象としたICT活用に関する研究会を開いて施策の浸透を図るとともに、県の職員が自らUAVを入手し、施工への活用実践を行うなど、前向きな取り組みが始まっています。また、京都でも近畿地整発注の工事で京都の建設会社がi-Constructionの工事にトライしておられます。i-Constructionは、地方の建設業にまで浸透して初めて成功と言われていています。今後もこの動きが加速することを期待しています。

最後に、立命館大学の近況について報告いたします。本学では、平成6年4月にびわこ・くさつキャンパスへの移転に伴って環境システム工学科が新設されて以来、土木工学科(のち、平成16年に都市システム工学科と改称)と環境システム工学科において土木工学・環境工学に関する教育・研究を行って参りましたが、平成30年4月、両学科を統合し、

新たに環境都市工学科を設置することとなりました。これからの時代の変化に柔軟に対応し、安全・安心な生活、快適で持続可能な社会の形成に貢献するため、より一層、教育・研究に力を入れて参る所存でございます。

以上、簡単ではございますが、京滋支部の近況報告とさせていただきます。

奈良支部

支部長 (40, 42) 尾田 榮 章



奈良京土会の総会が5月13日に開催され、会長に推挙された。今まで京土会の活動に消極的であった私が会長を務めることに内心忸怩たるものがあつたが、いくらかでもお役に立てるならと喜んでお受けした次第である。かつて父(利一)が勤めたことにも後押しされた気がしており、今までの態度との一変をお許しいた

だきたい。

さて来年(2018年)は行基の生誕(天智天皇七年(668年))から1350年の節目の年を迎える。行基は畿内(近畿地方)一円で地域総合開発事業と呼ぶべき土木事業を展開している。これを契機に、行基が活動した畿内を舞台に、多種多様な人たちが自主的に参画するムーブメントを起こしたいと考えている。

さいわいに金剛一智(S56)幹事長が率いる幹事団が増強された。彼等に引っ張られて前に進むことを楽しみにしている。

総会には、大井洋輔(S41)会長(前)を始めとして政界を引退されて気楽となられた前田武志(S37)元国土交通大臣、高篠香(S29)大先輩など総勢25名の参加を得た。ありがたいことである。

この他にも奈良支部には多くの会員がおられる。畿内の再興に向けて奈良が中心となって盛り上げたいと念じている。



大阪支部

幹事 (56, 58) 吉村 庄平

[支部活動報告]

大阪支部の幹事を務めております昭和56年卒の大阪高速鉄道株式会社の吉村でございます。支部の近況についてご報告いたします。



昨年度の活動といたしましては、支部総会を11月30日にホテルグランヴィア大阪で開催いたしました。当日は、今本先生、嘉門先生、萩原先生、大西先生、河田先生、岡先生の6名の名誉教授の先生方と、前会長の細田先生、土木系教室から清野先生、環境系教室から伊藤先生、平井先生の合計10名の先生方にご臨席を賜るとともに、産学官から約190名のご参加を頂き、交流を深めることができました。

[幹事交代]

また、幹事も交代し、昭和56年卒の鹿島建設の風間様と、同じく昭和56年卒の私、吉村が新しく幹事を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、支部会員の主な方々の異動についてご報告いたします。大阪市では、昭和55年卒の河谷様が水道局長に、大阪府では私の後任として昭和56年卒の井出様が都市整備部長に、昭和60年卒の森岡様が都市整備部技監に就任されました。

[大阪の近況報告]

つぎに、大阪支部の主な動きについて報告いたします。昨年から今年にかけては、インフラ整備に関して、大きな動きがあった一年でございました。まず、リニア中央新幹線の大阪までの延伸が8年、前倒され、北陸新幹線についても、敦賀駅～新大阪駅までのルートが与党プロジェクトチームにおいて決定されました。

[万博]

また、2025年国際博覧会を、大阪湾の「夢洲」に誘致するため、本年4月にBIEに立候補の届出がなされました。

[IR]

IRの立地推進についても、同じ「夢洲」への誘致にむけた動きが活発化しております。

[高速道路]

次に、都市インフラ、まず、道路関係ですが、本年3月には京奈和自動車道 岩出根来IC～和歌山JCT間の開通、4月には第二阪和国道の全線開通、さらに、新名神高速道路は、本年度末に神戸～高槻間の開通が予定されています。また、淀川左岸線延伸部がいよいよ今年度より事業化されます。利用者目線の取り組みとして、今月3日、関西圏のNEXCO、阪神高速、府県道路公社のシームレスな高速道路料金の実現を目指し、新たな料金体系がスタートいたしました。

[鉄道]

鉄道関係では、関西国際空港へ、新大阪や、都心部からのアクセスを強化する「なにわ筋線」が、(仮称)北梅田駅からJR難波駅および南海新今宮駅までの事業化に向け、鉄道事業者、府、市が事業計画の概要について合意いたしました。

この他、おおさか東線の整備や、北大阪急行線、私が担当する大阪モノレールの延伸なども進んでおります。

[南トラ対策]

次に、防災対策について報告いたします。南海トラフ巨大地震に備えた大阪湾岸の防潮堤の液状化対策については、地震直後、避難する間も無く、浸水する恐れのあるゼロメートル地域での対策を最優先に取り組み、昨年度末までにこの区域の対策を完了いたしました。

[治水対策(北部地下河川)]

治水対策としては、河川施設としては、初めて、大深度地下法を適用する「寝屋川北部地下河川」が昨年度都市計画決定されました。

[タイムライン]

また、大阪では都道府県としては、全国に先駆け、「タイムライン」策定の取り組みを進めており、台風による高潮・洪水に対する施設操作のタイムラインに加えて、住民、企業、自治体等が連携し、効果的な避難につなげるため、検討を開始しました。本年3月、河田先生のご協力を得て、この取組のキックオフとなるシンポジウムが開催されたところです。

[公営企業]

公営企業の民営化も進みました。大阪市下水道システムの運営・維持管理を担う「クリアウォーター OSAKA 株式会社」が設立し本年4月より業務を開始しました。また、大阪市営地下鉄は平成30年度から新会社に移行することが決定、公営地下鉄の民営化は全国で初めてのことで、

以上、この一年の大阪支部での主な動きをご報告しました。

[むすび]

我々、土木技術者の使命は、先輩方が築いてきた基盤を後世にも健全に引き継ぐとともに、新たな投資により、成長と安心安全の社会を築いていくことであります。この使命を果たすためには、産学官の連携・協力が、今後ますます重要であり、その一環として、大阪府では、近郊の7つの大学と包括連携しており、昨年、京都大学とも協定を締結

させていただきました。私は、今後も、産学官が集う京土会の果たすべき役割がより一層重要になると確信しております。

最後になりましたが、大阪支部といたしましては、引き続き、大阪・関西の成長に一翼を担えるよう、活動を続けて参りたいと考えておりますので、京土会の皆様方におかれましては、より一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。なお、今年度の支部総会は11月29日開催予定です。ご清聴、ありがとうございました。

神戸支部

支部長(53, 55) 山崎 聡 一

神戸支部は、兵庫県下に在住・在勤の会員約1,100人で構成されており、年に1度、支部総会・見学会などを開催しています。昨年支部総会は、11月29日に三宮のホテルモントレ神戸において、会員約60名の出席のもと開催しました。総会には、大学から社会基盤工学専攻・専攻長の立川康人教授(62)と都市社会工学専攻の松中亮治准教授(H6)の両先生にお越しいただき、交流を深めることができました。総会に先立ち、講師としてお招きした、神戸市住宅都市局計画部の手塚亮介担当部長(都心三宮再整備担当)(60, 62)から、「三宮再整備の動き」と題してご講演をいただきました。また、同日、三宮周辺地区の「再整備基本構想」対象エリアの現場見学会も開催しました。

ここで、最近の神戸支部関係のインフラ整備等の状況をご紹介します。

道路関係では、広域交流や産業発展につながる基幹道路のミッシングリンクの解消に努めています。大阪湾岸道路西伸部では国による直轄事業に加え、有料道路事業に着手されました。早期の整備完了に向け、調査が進められています。計画路線の名神湾岸連絡線および播磨臨海地域道路についても早期事業着手に向けた取り組みを進めています。また、阪神高速道路の新料金が6月から導入され、NEXCOの大都市近郊区間等と同様の対距離料金とし、車種区分も5区分に統一されました。

日本海地域と京阪神都市圏の連携・交流を促進する、北近畿豊岡自動車道では平成29年3月に八鹿日高道路が供用しました。山陰近畿自動車道では、浜坂道路が平成29年中に供用します。

防災・減災対策関係では、南海トラフ地震による最大クラスの津波に備えるため、兵庫県が平成27年度に策定した「津波防災インフラ整備計画」に基づき、防潮堤の沈下対策や防潮水門の整備・耐震化等の津波対策を推進しており、平成35年度までに概ね完了をめざしています。

一方、平成26年8月記録的豪雨により、甚大な被害をもたらした丹波市豪雨災害について、砂防、河川、道路等の復旧工事が順調に進捗し、復興に向けての基盤整備が整いましたので、6月3日に災害復旧記念式典を開催しました。また、土砂災害に備え、「第2次山地防災・土砂災害対策5

箇年計画」に基づき、砂防えん堤の整備などを進めています。

空港関係では、神戸空港において、関西全体の航空需要の拡大、関西経済の活性化などに貢献できるようコンセッション手続きを進めており、平成30年度からの運営権者による事業開始をめざし、事業の引継ぎを進めているところ です。

以上が神戸支部をめぐるインフラ等の整備の現状です。

なお、港湾関係では、開港150年を迎える神戸港において、5月に秋篠宮さまご臨席のもと「神戸開港150年記念式典」を開催したほか、7月には「海フェスタ」を開催し、9月には食のイベントを開催するなど、様々なイベントを開催してきました。年末まで残りわずかですが、開港150年のこの機会に、ぜひ神戸港へお越しください。

昨年も熊本地震をはじめ、鳥取県中部地震や相次ぐ台風による豪雨により各地で被害が発生しています。近い将来発生が懸念される南海トラフ地震などによる被害を最小限に抑えられるよう、引き続き防災力の向上に取り組んでいきたいと思 います。

最後に、支部会員の益々のご活躍と京土会の発展をお祈り申し上げるとともに、支部活動への引き続きのご協力を よろしくお願いいたします。

岡山支部

幹事長 (61) 長尾俊彦

岡山県では、初の民間出身である伊原木隆太知事が2期目を迎え、今年3月に、県政において最上位に位置付けられる総合的な計画「新晴れの国おかやま生き活きプラン」を策定しました。このプランは、すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き活き岡山」の実現を基本目標に、平成29年度からの4年間で取り組む重点戦略や施策を盛り込んでおり、このプランを県政推進の羅針盤として、すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き活き岡山」の実現を目指すこととしております。とりわけ重きを置く企業誘致・投資促進、観光振興、防災対策等のプログラムの実現には、道路、河川・砂防、港湾等のインフラの整備・充実が欠かせません。

県下のインフラ整備につきましては、本年3月に、水島地区と玉島地区を結ぶ「倉敷みなと大橋」が供用開始され、物流の効率化や交通の円滑化など、本県経済に大きな効果が生まれており、今年度から、水島港の国際ターミナル事業や、美作岡山道路の英田IC～湯郷温泉IC間の整備に新たに着手しております。また、伊勢湾に次ぐゼロメートル地帯を抱える岡山県南部の水害リスクに対し、高梁川水系小田川の合流点付け替え、旭川や百間川の改修、吉井川の高潮対策事業等も着々と進捗いただいております。さらに、中国横断自動車道岡山米子線の4車線化についても、付加車線の設置という形で大きな進展を見ているところです。引き続き、中四国の拠点として、グローバルに発展するおかやまを目指し、しっかりと存在感を発揮していきたいと考

えております。どうぞよろしくお願 いたします。

さて、今年話題の将棋界では、14才2ヶ月の最年少でプロとなった藤井聡太四段が、新人として公式戦29連勝を記録し、最多連勝記録を更新いたしました。今や、多くの将棋少年が藤井四段にあこがれ棋士を目指す将棋ブームとなっております。彼のような若い才能の台頭は、将棋界に新風を吹き込むもので、新たな時代の到来を予感させます。

将棋と言えば、岡山県にも、高度経済成長期の昭和30年代から40年代前半に、初の五冠（名人・十段・王将・王位・棋聖）を達成するなど一世を風靡し、「十五世名人」及び「永世十段」、「永世王将」、「永世王位」、「永世棋聖」という、5つの永世称号を冠された大山康晴氏がいます。氏の通算1433勝の記録は今も歴代1位に輝いています。正面から実力で押す正攻法を棋風とし、いわゆる小細工を弄することを良しとしなかった大山氏ですが、一方で大変に几帳面な方だったようで、勝っても負けても、次の対戦に備え、棋譜とともに対戦相手に関する印象まで、ノートにびっしりと記録を残されていたという逸話が残っています。

私たちの土木の仕事も将棋の世界に通じる面があると感じております。将棋に、ひとつとして同じ棋譜がないように、現場条件に応じたオーダーメイドで、ひとつとして同じ仕事はないこと。水文調査や地盤調査の結果を読み込むことは、対戦相手の過去の棋譜を学ぶのと同じことです。また、自然の気象や地盤などが指してくる厳しい一手に、先を読み最善の手を練って応じなければ、到底、勝利することはできません。さらに、大山氏の逸話も参考にすれば、一局一局の記録をしっかりと残し次の対局につないでいくこと。これも、ひとつの現場で得られた知見や経験をしっかりと記録に残し、後の工事に生かすこと。河川を例にすると、その河川の持つ歴史、過去の水害の記録をたどり、来るべき次の水害への備え、日常の管理に生かすことが重要だという点で相通じていると思います。直面する課題への対応に忙殺されがちではありますが、対応の経過、思考の過程をしっかりと残していくことで、後の新たな課題解決の糸口となるものと考えます。

岡山支部の近況ですが、会員数は岡山大学、岡山県、㈱大本組を中心に60～70人で推移しております。20代、30代の若手は10人前後と少なくなっておりますが、各分野の豊かな学識・経験をお持ちの方々まで、幅広い年齢構成になっております。会員の異動につきましては、岡山県では本年4月に、田井中靖久氏（S61, S63）が土木部長に、樋之津和宏氏（S57, S59）が都市局長に就任され、京土会のお二方が県の土木行政を牽引されることとなりました。当支部では、毎年、6月と11月の2回、懇親会を開催しております。本年も6月2日に、教室から清野純史先生、山本貴士先生のお二方をお招きし、支部総会を兼ねた前期の懇親会が盛大に開催されました。清野先生からは、本学の近況をご紹介いただき、遠い学窓の思い出に浸る貴重なひとときを過ごさせていただきました。ありがとうございました。わが岡山支部の懇親会は、毎回、幅広い年代の方々が集い、

和気あいあいの雰囲気で開催されております。県外からのご参加も大歓迎です。皆様お気軽に足をお運びいただければと願っております。

最後になりましたが、会員の皆様のますますのご活躍と京土会のご発展をお祈り申し上げますとともに、支部活動へのご支援をお願いし、岡山支部からの近況報告とさせていただきます。

広島支部

幹事 (H9) 印 居 孝 之

広島支部の近況をご報告します。

今年度の支部総会及び懇親会を、去る7月12日に開催いたしました。

支部会員数は現在118名で、異動・転出などにより、昨年より若干増加となりました。今年度の総会には、昨年度と同数の43名の方々にご参加いただき、盛会となりました。



総会では、中川道弘支部長 (S50) 挨拶の後、支部長の役職を後輩へ譲られるとのお話をいただき、今年度より井上徳宣様 (S52) の支部長就任が諮られ、皆様の賛同により承認されました。また、本部評議員には、井上徳宣様に代わり福原真爾様 (S54) の就任が諮られ、皆様の賛同により承認されました。

総会においては、過去は講師を総会にお招きし、自由なテーマでご講演をいただいておりますが、近年は、会員同士の懇親をより深めていただくため、講演の時間に代えて、懇親会の時間をより多くとることにいたしました。

総会後の懇親会は、常松芳昭様 (S41) の乾杯の音頭で始まりました。途中、佛原本部評議員による京土会本部総会の報告や、新規加入者の方々などの挨拶がありました。

今年度の新規加入者として、中電技術コンサルタント(株)の梅田和男様 (S56) を始め計8名の方々に自己紹介を兼ねた近況報告をいただき、さらなる会員相互の交流のきっかけとすることができました。

昨年度に引き続き、会員の方々により、新規加入者の情報提供及び総会参加の呼びかけを実施していただいたことで、多数の新規加入者の方々の参加が実現し、会の活性化と会員同士の親睦を例年にも増して諮ることができたものと思います。



京土会本部総会当日の佛原氏

最後は、桑原博一様 (S46) の挨拶で盛会裏に散会となりました。

さて、最近の広島県の状況でございますが、インフラ整備では、平成26年の8月に発生した広島市北部の大規模な土砂災害以降、災害に強いまちづくりに向けて、早期の復旧、復興やハードとソフト両面からの防災、減災対策などが進められ、また、広域交流・連携基盤の強化として、国道2号バイパスや広島高速5号線事業、臨港道路廿日市草津線の4車線化などの大規模プロジェクトが進められています。

その他の状況といたしましては、プロ野球で広島東洋カープが37年ぶりのリーグ連覇を達成し、広島では昨年度にも増して大変な盛り上がりを見せております。

広島支部におきましては、今後とも会員相互が一致団結してまいります。

最後に京土会会員皆様方の益々のご活躍と会のご発展をお祈りするとともに、支部活動へのご支援をお願いし近況報告とします。

山口支部

幹事長 (H3, H5, H8) 樋 口 隆 哉

山口支部は、山口県に住所あるいは勤務地のある同窓生を会員とし、現在約40名の会員からなっています。会員の転入、転出が比較的少ないため、大体が固定メンバーとなっており、その分会員同士の親密な関係が築かれているといえます。会員の約4分の1は定年退職された先輩方で、悠々自適の生活を送られたり、あるいは今も現場の第一線で活躍されたりしています。あとは県庁関係者が約4分の1、山口大学など教育機関が約4分の1、民間企業や研究所が約4分の1となっています。山口支部では、1～2年に1回懇親会を開催しており、会員間の交流を深めたり情報交換を行ったりする上で貴重な機会となっています。平成29年7月29日には2年ぶりに懇親会を開催しました(写真)。いつも参加していただいている方、久しぶりに参加された方、転入によって初めて参加された方など様々で、旧交を温めたり新たなネットワークを広げたりするよい機会となりました。



京土会山口支部懇親会にて（平成29年7月29日）

山口県では、これまでに幾度も7月から8月にかけて大雨による災害が起こっています。幸い今年の梅雨時期には大きな災害は発生しませんでした。過去の災害からの復旧に当たっては、われわれ土木関係者が官・民・学それぞれの立場から重要な役割を果たし、尽力しました。また、来るべき西日本の大震災（東海、東南海、南海地震など）への備えも県の方針で進められており、私たち会員の多くは安全な地域社会の実現へ向けてその中心的な役割を担っています。それらのための情報交換には支部の存在、すなわちお互いが顔見知り、ということがとても役立っています。小さな所帯ではありますが、しっかりとした活動を進めていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

四国支部

支部長（50, 52）高口 秀 和

四国支部は四国4県（徳島、高知、愛媛、香川）に居住または勤務する京土会会員で構成されています。近年の会員数は150名前後で推移しており、平成29年5月現在、140名となっています。

四国支部では、例年5月後半の土曜日に支部総会を開催して、支部会員の懇親を深めています。平成29年度は、本学から白土博通教授と山上路生准教授にご臨席いただき、香川県高松市内で5月27日に支部総会を開催しました。支部総会には、支部会員36名、支部外からも2名のご参加をいただき、本学の先生と合わせて40名が参集しました。



支部総会では、白土教授・山上准教授より、国際化拠点整備事業（グローバル30）や吉田カレッジ構想など本学における国際化に向けた取り組みをご紹介いただくとともに、入試制度改革により、工学部では第2志望まで学科を選択できるようになっていることなど、本学の近況についてもご報告をいただきました。興味深いホットな話題に触れることができ、会場からは時折、感嘆の声が上がっていました。

その後、懇親会に移り、それぞれが久闊を叙しながら、世代を超えて懇親を深めた後、参加者全員がお互いに肩を組み合せて「琵琶湖周航の歌」を大合唱し、参加者の団結を固め、最後に、京土会四国支部の発展を祈念して万歳三唱を行い、盛会のうちに幕を下ろしました。

四国支部では、過去数年間の支部総会参加者数が40名を下回っていることから、今後も、引き続き活性化に取り組み、会員同士の懇親を深めるための場である支部総会を盛り上げていきたいと考えています。

四国支部会員の皆さまには職場、学校等で四国支部総会への参加を積極的にお誘いいただくとともに、四国外の皆さまも四国に勤務する機会等がございましたら、四国支部総会にご参加くださいますよう、宜しく願いいたします。

北九州支部

幹事（H21, H23）福 田 尚 倫

北九州では、関門橋や関門国道トンネルにつづいて、本州と九州を結ぶ「下関北九州道路」の建設に向けた調査検討会が5月に設立された。この会では、投資財源、概略ルート、構造形式など、ビッグプロジェクトに向けた検討が始まっている。関門海峡地域の発展、観光の振興などに大きな期待が集まっている。

また、今年には旧八幡市制100周年の年にあたる。国の根幹を支え、“鉄都八幡”として成長してきた歴史をふり返り、祭りや写真展などさまざまな催しが行われている。これを



（出席者） 前列・左から 森川、垣迫、藤井
後列・左から 吹中、瀧口、鍵本、高田、真名子、津守、福田

記念し、今年の支部定例会は八幡東区の大谷会館（旧八幡製鉄施設）で7月19日に開催した（会員23名、うち出席10名）。会合では、各位の仕事や余暇利用など、幅広い話題で盛り上がった。

支部会員短信

藤井 崇弘 (34, 36)

この5月、教養時T3の同期会「燦充会」（昭30年入学の意）の最後の会を九州で開くことになり、お世話した。筑後・船小屋温泉に、土木5名、建築・機械・電気・工化ほか計15名が遠方から集まった。

会では、自分も含めて「みんな、よくがんばった」と青春をなつかしみ、生きてきた感慨を共にした。

リタイアして約10年、82歳。健康を保ち、囲碁を楽しんでいる。

垣迫 裕俊 支部長 (52)

北九州市に入庁して41年目、今年62歳となった。環境、福祉などさまざまな分野を経験し、現在は教育長を務めている。孫が2人に増え、自分の子供の時に比べると、世話に余裕が出てきたように感じる。

森川 真一 (54, 56)

昨年退職したが、再雇用で現在も水道局にて水道管工事の仕事をしている。趣味のサイクリングとマラソンは継続している。垣迫さん、瀧口さんとは大学時代同じサイクリングクラブだった。

鍵本 広之 (60, 62)

北九州に来て4年、電源開発で石炭灰の海面埋め立ての技術開発業務をしている。埋め立て密度を2割5分上げ、埋め立て容量を減らせる工法を開発、昨年ブラジルで発表してきた。

瀧口 将志 (H1, H4)

JR九州で関門トンネル等の土木構造物のメンテナンスの仕事をしている。博多から転勤となり、昨年北九州支部に入会。趣味のサイクリングにこれから力を入れていきたい。

吹中 範生 (H4, H6)

廃棄物焼却炉の海外展開の仕事をしている。北九州市の国際協力のもと、東南アジアをメインに活動している。子供が2人おり、下の子は高校3年で来年受験を控える。

高田 純一 (H8, H10)

廃棄物溶融炉の技術開発の仕事をしている。5年ほど単身香川に住んでいたが、今年の5月に北九州に帰ってきた。最近、小学校2年生になる息子と、キャッチボールやバドミントンをして休日をお過ごしている。

真名子 一隆 (H10, H12)

廃棄物溶融炉の海外展開の仕事をしており、出張でヨーロッパに行くことが多い。昨年は、災害廃棄物処理の仕事で単身福島に住んでいた。久々に家族と過ごすことができうれしい。

津守 嘉彦 (H15)

北九州市に勤務。今年度から農林水産部の水産課へ異動となった。集落排水の管理・工事監督等の仕事をしている。上の子が小学校に入ったばかり。給食を残すのでちょっと困っている。

福田 尚倫 (H21, H23)

廃棄物溶融炉の設計・開発の仕事をしている。数値シミュレーションをすることが多く、数字とにらめっこしている。7月に第一子が産まれた。育児も頑張っていきたい。

福岡支部

(H23, H25) 松山 卓真

本稿では、平成29年6月8日に福岡市内で開催された「平成29年度京都大学土木会福岡支部総会」を中心に福岡支部の近況についてご報告いたします。

はじめに、最近の九州の動きをご紹介します。まず、平成28年11月、博多駅前での地下鉄延伸工事の現場において道路の陥没事故が発生しました。発生当初はなかなか復旧の目処が立たなかったものの、福岡市を中心とした関係者の尽力によりわずか一週間で通行が再開され、平成29年6月には、工事が再開されました。また、「平成28年熊本地震」の発生から1年が経過し、少しずつではありますが、着実に復興・復旧が進められております。しかしながら、いまだに多くの被災者の方々が避難生活を送られているのが現状です。

次に、福岡支部の活動状況についてご紹介します。

当支部は、北九州を除く九州全域に在住、在勤の京士会会員によって構成されており、毎年総会・懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めております。

今年も、大学より宇野伸宏教授を来賓にお迎えし、支部総会及び懇親会を開催いたしました。今年の総会には、20名の方にご参加を頂き、写真の通り、大変な盛り上がりを見せ、盛況のうちに幕を閉じました。

今回の総会では、宇野教授より自身の研究室の近況や土木系学科の新入生の傾向等についてのお話を頂戴しました。入学試験制度の変更に伴い、土木系学科の志望度が低い学生の入学割合が以前と比較して増えている、というお話には、言いようの無い寂しさを感じたものです。

また、九州電力株式会社の本郷克浩様 (H5, H7) より、玄海原子力発電所の安全対策についての取り組み等をご紹介頂きました。



支部総会の参加者は以下のとおりです。(敬称略)

三池 (29), 小倉 (44), 大津 (49), 松葉 (49), 柏木 (53),
山下 (54), 山中 (54), 内山 (56), 松田 (56), 千田 (57),
満島 (58), 大本 (59), 三坂 (H1), 渡辺 (H4), 本郷 (H5),
小澤 (H6), 梶田 (H6), 松山 (H23), 東 (H24), 義経 (H26)

最後に、福岡支部の連絡先についてご案内いたします。
懇親会などの支部行事のご連絡は京土会の会員名簿から九州在住在勤者を抽出してお送りしております。ご案内をお届けできていない方は、お手数ですが下記の担当者までご連絡をお願い致します。

連絡先

〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号
九州電力(株) テクニカルソリューション統括本部
土木建築本部 調査・計画G 義経 浩平
TEL: (092) 726-2107 FAX: (092) 771-9541
Email: kohei_yoshitsune@kyuden.co.jp